

道徳（１～３年）シラバス

(1) なぜ、道徳を学ぶの？（道徳で身につく力）

道徳の時間は、みなさん一人一人にとって、自分の心を育てるとしても大切な時間です。資料の中の主人公の気持ちを追いながら自分自身のことについて考えることはとても意味のあることです。道徳は、みなさんに決してよい行いをすることを求めているわけではありません。では、道徳の時間には何を学ぶのでしょうか。

人間は生活していく中で、いろいろな場面に出くわします。時には自分はどうすべきか悩んだり、なぜこんなことをしてしまったのかと後になって悔やんだりすることもあるものです。また、だまっていればわからないかもしれないけど、自分の過ちを素直に申し出られたときなどは、こんな自分でよかったなあとの底から納得することができるものです。このように人間はだれもが心に弱さをもっていますが、それと同時に「自分はこんな人間でありたい」という願いが心の奥底に潜んでいるものです。自分自身、心から納得できる生き方ができるということは自分にとってとても重要なことです。

このように、道徳の時間は自分自身の価値意識を育てるための時間なのです。別の言い方をすれば、自分自身のしっかりした判断基準や行動基準を作り上げていくためのものなのです。どうすれば本当に心の底から納得できる人間になれるのか、資料を通して自分自身のことについてじっくり考える時間なのです。ですから、自分の心を育て、自分という人間をつくりあげていくための道徳の時間を大切にしていきましょう。

(2) 道徳の時間

話し合いの進め方（基本的なルール）

話し合いをするためには、次のような基本的なルールを守ることが必要です。

皆に聞こえる声で発言する。

友達の意見をしっかりと聞き、その意見を踏まえて自分の意見を述べたり、友達の意見の論拠や違いなどを聞き分けたりする。

短い言葉で終わりにせず、自分の気持ちをなるべく詳しく述べる。

(例)「この時の主人公は、どんな気持ちだっただろう？」

A「うれしかったと思います。」（なぜうれしかったのかももっと詳しく）

B「ほめられたので、うれしかったのだと思います。」

C「友達が喜んでくれたので、うれしかったのだと思います。」

D「親切にできた自分に心から満足して、うれしかったのだと思います。」

同じ「うれしかった」でも、この3つの意見は全く違いますね。

授業の中での学習のポイント

今日は、どんなことを学習するのだろうかという興味・関心をもって臨もう。

主人公の心の動きを追いながら資料を読もう。

主人公の心の変化を中心に、みんなで話し合いたいところを考えよう。

友達の意見を参考にしながら、自分の考えをもとう。

主人公と自分自身とを重ね合わせて心の中でじっくり考えてみよう。

主人公の生き方をもとに、他人ではなく、自分自身にとって、どんな生き方をすることが本当に納得できる自分でいられるか考えてみよう。

今日の学習を通して考えたことや自分自身の気持ちを大切にしていこう。

(3) 心のノートの活用について

「心のノート」がみなさん一人一人の手元に配られました。この「心のノート」は教科書ではありません。また、道徳の時間に使う副読本とも違います。「心のノート」には、次の3つの特徴があります。

みなさん一人一人が自ら学習するための冊子

このノートに、自分だけの名前をつけてもよいでしょう。興味あるページに自分自身の気持ちを書き込んだり、友達同士あるいは家の人といっしょに見ながら話をしたりしてみてください。

自分自身の心の記録となる冊子

自分の生活や体験を振り返り、心に留めておきたいことを書きとめておきましょう。大切に使い、後で読み返してみると、自分自身の心の成長がつかめるでしょう。

学校と家庭との心の架け橋となる冊子

学校でも道徳の時間をはじめとして、さまざまな機会に用いてますが、家庭でも保護者が読んだり記入することによって、連携してみなさんの道徳性を育むものになります。

道徳で学ぶ内容がわかりやすく書かれているので、ぜひ「心のノート」の興味あるページを開いて見たり、自分だけの心の軌跡を記録として残していけるよう活用してみてください。



道徳教育の目標は、学習指導要領に次のように示されています。

学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間をはじめとして各教科、特別活動及び総合的な学習の時間のそれぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならない。

道徳教育の目標を総則に明記し、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の一層の充実を図ることを目指しています。

道徳の時間の目標は、学校の全教育活動を通じて行う道徳教育の目標をそのまま受け継いで、道徳の時間以外における道徳教育と密接な関連を図っていきます。

1. 計画的、発展的に指導する。
2. 学校教育全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する。
3. 道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を図る。
4. 道徳的実践力の育成を図る。

杉戸中学校では、道徳教育の充実のために、次のようなことを目標に取り組んでいます。

道徳教育の重点目標

物事を自主的に考え、正しく判断し、誠実に実行する生徒を育成する。
他の人に対し、感謝や思いやりの心がもてる生徒を育成する。
人間の弱さを克服し、生きること喜びを見いだせる生徒を育成する。
差別や偏見のないよりよい社会の実現に尽くす生徒を育成する。

道徳の時間の指導方針

計画的、発展的な指導を通して各教科、特別活動、総合的な学習の時間との密接な連携を図りながら道徳教育の補充深化、統合を図り、「かなめの時間」としての道徳の時間の充実に努める。
道徳的価値、及び人間としての生き方についての自覚を深め、生徒ひとりひとりの道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的実践意欲と態度の向上を目指す。

道徳的実践の指導

豊かな体験をもとに内面に根ざした道徳性の育成を図る。

- ボランティア活動の推進
- 環境教育の推進
- 杉の木さわやか活動の実施
- 5つのふれあい県民運動の推進
- 2 days チャレンジ事業の推進

中学校 道徳の内容 (23項目)

1. 主として自分自身に関すること

- (1) 望ましい生活習慣を身に付け、心の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
- (2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。
- (3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。
- (4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。
- (5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

2. 主として他の人とのかかわりに関すること

- (1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。
- (2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ。
- (3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。
- (4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。
- (5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、謙虚に他に学ぶ広い心をもつ。

3. 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること

- (1) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。
- (2) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。
- (3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること喜びを見いだすように努める。

4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること

- (1) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
- (2) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。
- (3) 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。
- (4) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。
- (5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって公共の福祉と社会の発展に努める。
- (6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。
- (7) 学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。
- (8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。
- (9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。
- (10) 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。